

AMDA開設 ネパール子ども病院10周年

「ありがとうね」の心 絵本に

阪神大震災(95年)の被災地から集まった義援金などを基に、ネパール南西部のブトワル市に開設された「AMDA(アムダ)ネパール子ども病院」が今秋、設立10周年を迎えるのを記念し、国際医療NGO「AMDA兵庫県支部」が絵本「ありがとうね」を近く出版する。作者で兵庫県淡路市の内科医、鈴記好博さん(43)は「KOBÉとネパールの人々の絆で病院が作られ、多くの母子に夢と希望を与えていることを世界中に知ってもらいたい」と語る。

【藤原崇志】

兵庫県支部の鈴記医師



「AMDAネパール子ども病院」の絵本を描いた鈴記好博医師 一兵庫県淡路市で



病院は、震災でネパールを含む途上国から物心両面の支援を受けたお返しに、AMDA(アジア医師連絡協議会、本部・岡山市)と毎日新聞、毎日新聞社会事業団がキャンペーンに取り組み、被災地から寄せられた浄財などで建設され、98年11月に開設。AMDAネパール支部が運営している。

ネパールは衛生環境の劣悪などから、妊婦死亡率が日本の60倍、乳幼児死亡率は25倍に上り、病院には各地から大勢の妊婦らが来院する。

絵本は、現地で神聖な動物とされる牛と、子どもが主人公。病院設立の経緯や、病院で初めての赤ちゃんが誕生する場面などを、ユーモアを交えて紹介している。絵本作家でもある鈴記医師は「両国の互いの支援への感謝の気持ちを表現したかった」と、本のタイトルを決めた。AMDA兵庫県支部長の江口貴博医師(43)は「絵本を通じて、ネパールの子どもたちへさらなる理解を」と呼びかけている。

A5判36ページ。日本語版2000部とネパール語・英語の併記版1000部を発行。1部500円。売り上げは来年1月に増設予定の周産期病棟の建設資金に充てる。希望者は同支部(078・911・7851)へ。